

# 「みやぎお魚だより」 第1号

更新日：平成24年6月18日（月）



○担当：宮城県水産技術総合センター 内水面水産試験場

## ●広瀬川の天然アユ遡上状況について

内水面水産試験場では、天然アユの遡上状況の情報提供と資源管理のための基礎データを得る目的で、広瀬名取川漁業協同組合と共同で5月中旬から10日に1回の頻度で広瀬川で調査を行っております。

調査は、図1に示した各調査点において、それぞれ投網を10回打ち、1回あたりの天然遡上魚の平均採捕尾数を求める方法で行っております。

前年は稚アユが沿岸域に滞留している時期に東日本大震災があり、遡上量が極端に少なかったことから、今年の天然遡上についても心配されました。しかし、5月中旬の調査では調査点1において例年より少ないものの、この時期の遡上が確認されました。また、採捕されたアユは、遡上したばかりと考えられる体長6～9cmの稚魚に混じり、一部体長10cmを超える大型個体も含まれていたことから、例年どおり遅くとも4月下旬には遡上を開始したものと推測されました。

遡上量については図3、4に示したとおりで、特に調査点1では5月中旬に4.5尾／投と例年より少なかったものの、5月下旬には22.9尾／投と遡上量が上向いてきていることが確認されました（図3）。

今後も、7月の解禁まで広瀬川の天然アユの遡上状況を確認し、結果をお知らせします。

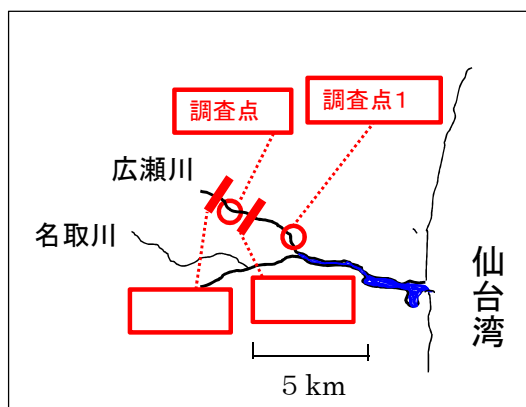


図1 調査地点

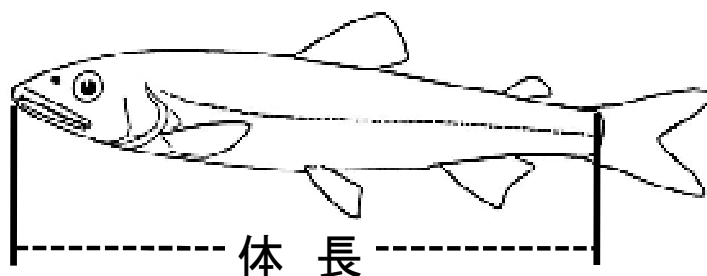


図2 魚の体長

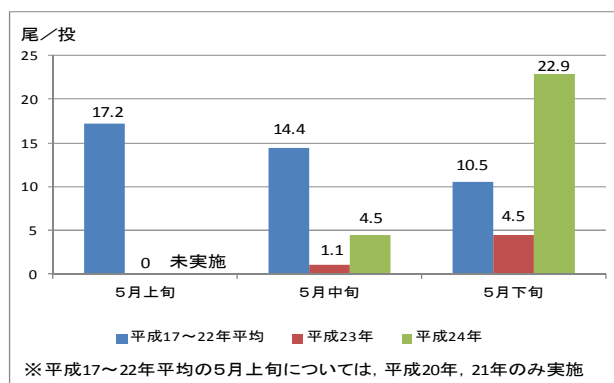


図3 調査点1の1投あたりの採捕尾数

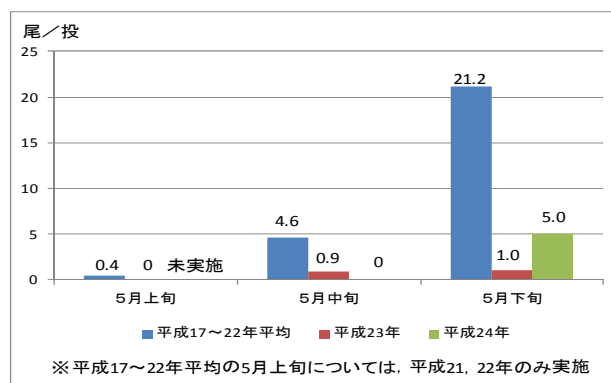


図4 調査点2の1投あたりの採捕尾数

また、アユについても他の魚種と同様に、福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響を調査するため、5月中旬に各漁協の協力の下、広瀬川と北上川の検体を調査した結果、いずれも放射性セシウムは不検出でした。



投網調査の風景



採捕されたアユ